

2024年度事業報告書（案）

2025年 3 月 31 日

公益財団法人 日本セーリング連盟

2024年度事業報告

公益財団法人 日本セーリング連盟

經濟委員會 委員長 池田 勇之

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
a	定例表彰	インクルーシブな取り組みを含む「セーリング活動の表彰事例	顕著な活動の認知促進向上	表彰の開催	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
e	がパンクロード対応	乗具・乗客の継続的整備	乗具の改善、乗客の安全確保の向上	乗具の改善、乗客の安全確保の向上	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
f	がパンクロードの公開・体験招待	乗具・乗客の継続的整備	乗具の改善、乗客の安全確保の向上	乗具の改善、乗客の安全確保の向上	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
g	コンテラ(インテグ)	乗具・乗客の継続的整備	乗具の改善、乗客の安全確保の向上	乗具の改善、乗客の安全確保の向上	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等

財政委員会 委員長 松田 一雄

計画番号	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標・実績との比較、次年度への課題等
b-1	適切な支払・立替手続きの進行	・各専門部署担当者による定期的な支払・立替手続の回覧実施。 ・事務局と協力して支払・会計処理等に際する事務手続の簡便化と効率化。 ・滞り金取戻の徹底確認、滞りされた証拠の必要性について再確認を継続。	公益財団法人に対してはコントロール・ランシップの継続・向上	各種外債関係に対する支払の滞り無し	適年	Green	通常の支払手続については滞りなく支払チェックを実施。 不備に対しては即座の確認を実施。
b-2	適切な予算執行と会計帳簿の作成と管理	・事務局のほかに関連する専門委員会とも連携し、予算・決算に際し、評議会・理事会各々の報告の透明性と説明性の確保を向上させる。 ・中期計画や重点施策に基き、各専門委員会推進する事業計画の進捗に応じた円滑な予算執行に努める。 ・会計手帳の取扱いについての情報提供を継続。	事業計画に基づいた事業・予算の執行状況のモニタリング強化	評価会・理事会向け報告	適年	Yellow	JISAF全体の財政健全度の確保化に向けたアクションの一環として、2025年度予算案に際して当初予算での赤字を段階づけ（従前のリゾ）を見直し、具体的には、各専門委員会や予算案決定に際した支出の上限目標を設定し、後者の委員会が関係する事業における予算管理の徹底を継続、報告内容に注力することとした。
b-3	健全な財政基盤の確保	・JISAFとしての経費削減に基き、資費・賃金給、奨励金等の収入予算拡大の検討がなされる年、事務局及び総務委員会等関連する専門委員会とも連携し、財政面での管理体制の整備を進める。	公益財団法人に対してはコントロール・ランシップの継続・向上	管理ツール整備	適年	Yellow	同上
b-4	会計経理業務のガバナンス強化	・事務局における経理会計事務全体の体制強化を推進し、帳簿・監査を整備を進める。 ・公益財団法人に期待される会計・経理業務の確かな履行、影響を進行。 ・業務委託先の選定方法、業務委託における契約書締結時要項の統制、支払申請に際しては、新たな業務フローを各関係部門に定着させる。	公益財団法人に対してはコントロール・ランシップの継続・向上	試算表、マニュアル等の整備	適年	Yellow	試算表等の作成や会計事務関係での引継ぎも蓄めた体制の強化と変化は進捗するも継続フォロー。 業務委託先選定・契約締結フローについてはより効率的な運用を目指し継続フォロー。 ガバナンスプロジェクトへの参画を通じ総務委員会ともガバナンス両面で協働を継続。

事業開発委員会 委員長 平松 隆

重点事業	事業名	事業内容	事業の意義	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成率評価	目標・実績との比較、次年度への課題
h	JSAF SHOPの運営管理	JSAF SHOP受注品の発送管理、在庫管理、並びにSHOP情報の更新と、登録者へのタイムリーなサービスの提供。	JSAFロゴリッパズの販売を通して、登録JSAFロゴの哺養事業の向上とSHOPの年間売上アップ	年間売上目標 3,000,000円(2023年度実績見込み)より1割増しの3,300,000円	年間	Green	計画年約135%。(2023年度売り上げは約2,300,000円)
i	JSAF SHOP販売商品の拡充	魅力あるJSAFロゴ商品開発	年間にわたってJSAF会員とサーシングファンに共感した新規商品を随時発表。新しい販路の開拓と	年間売上目標 3,000,000円(2023年度実績見込み)より1割増しの3,300,000円	年間	Green	目標に対する達成率は約103% (13月31日現在で売り上げは3,100,000円)
i	企業コラボ製品の制作	45RPM社以外の新規コラボ企業との開発	機業に利益の見える提案企業開発により、安定した利益を確保する。	新規契約企業1社を目標とする。	年間	Red	新規契約企業はなかった。2025年度は新規契約企業の獲得を目指すこととする。

店報委員會 委員長代行 宮藤 淳

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
全事業	JSAF公式ウェブサイト運用	JSAFサーバー・公式ウェブサイトの保守管理	JSAF広報業務の遂行（システム管理）	経費節減が実現できます	継続	Yellow	目標と実績との比較、次年度への課題等
	JSAF公式ウェブサイト運用	JSAFサーバー・公式ウェブサイトの保守管理	JSAF広報業務の遂行（サーバー管理）	経費節減が実現できます	継続	Yellow	
	JSAF公式ウェブサイト改修	JSAF公式ウェブサイトの改修作業	JSAF広報業務の遂行	変換しない	継続	Red	
	JSAF公式ウェブサイト改修	JSAF公式ウェブサイトの改修作業	JSAF広報業務の遂行	変換しない	継続	Red	
	オンライン版J-Saling	組織内広報のための新メディア立ち上げ	JSAF広報業務の遂行	変換しない	継続	Red	事業中止。2025年度実施を目指す
	全事業	機関広報用コンテンツ拡充	JSAF広報業務の遂行	変換しない	継続	Red	事業未実施
	デジタルJ-Saling改修	銀行デジタルJ-Salingの使い勝手向上	JSAF広報業務の遂行	変換しない	継続	Red	事業未実施。2025年度以降、3年分
	機関J-Saling	機関J-Saling（ホームページ）廃止	JSAF広報業務の遂行	変換しない	実行	Green	JSAF関係の資産のメンテナンス引継ぎ費用削減による、経費削減が実現した。
	パブリック向け	パブリックに向けた特設広報機体の構築	JSAF広報業務の遂行	計画事業の遂行	2024年6月、9月	Green	記者会見、仕合会、報告会を含めて、タイムリーな広報活動を実現した。
	JSAF公式SNS運用	JSAF公式SNSへの情報発信	JSAF広報業務の遂行	計画事業の遂行		Red	事業中止（団体の運用の活用のみ）SNS発信の頻度向上
スマホメディア対応	JSAF公式ウェブサイトのユニバーサル化	JSAF広報業務の遂行	メディア掲載		Red	計画に到達せず	
全事業	広報委員会委員の刷新	JSAF広報業務の遂行	委託業務の計画の遂行		Yellow	ロス5割へ向けて、広報体制の再構築、情報伝達の取り込み、によるJSAF-HPの見直し、SNS発信の組織的対応を早急に実現する必要がある。	

環境委員会 委員長 大塚 俊朗

[illegible]

レディース委員会 委員長 長田 純雪子

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成状況	取組の振り返り
f	チャイルドルーム	E.O.Wチャイルドルーム開設	女性支援、ジェンダーフリーへの取組	利用者数 20名	2024年5月	Green	本大会での設置が恒例化し、利用できるように条件に運営協力を引き受けるなど、次に期待されている様子が見えた。大会がISAFの主催ではなくなったため、予算確保のことが重要視される。
f	チャイルドルーム	運営協定スポーツチャイルドルーム開設	女性支援、ジェンダーフリーへの取組	利用者数 13名	2024年9月	Yellow	指図が狭く、子どもたちにもいじめを誘発できなかった。選手、役員が希望が多く、それに応えるとはできなかった。事業内容の改善を要中。
f	チャイルドルーム	津波災害チャイルドルーム開設	女性支援、ジェンダーフリーへの取組	利用者数 54名	2024年10月	Yellow	子どもたちには、災害時の避難場所として利用の機会が多い施設となった。児童館との協働による、子どもたちや人権の意識の向上が図られていて、未経験の女性や子どもの参加があり、楽しく体験することができた。多くの人にセーリングの楽しさを伝えることができた。
a,c,d,e	WSAテラリングワークス	ハンプザ参加	普及促進、女性参加支援	参加者数 30名	2024年6月	Yellow	大会が盛り上がり、興味をもたれるものになったことで、多くの人にセーリングを取り取りセーリング環境の向上につながった。
d,j	生障用品配布	女性参加する大会で生障用品を配布し、自分の身体への正しい知識や健康への意識を啓発する	女性支援	配布人数 30名	通年	Green	活動中の5名のスポーツに該当する大会がセーリングに関わり続けると目標を達成することができる。
h,j	情報教育	女性セーリングを取り巻くセーリング環境の向上にインクルーシブなセーリングへの取り組みの取組	女性支援	参加人数 222名 Zoom28名	2024年2月	Green	活動中の5名のスポーツに該当する大会がセーリングに関わり続けると目標を達成することができる。
h,j	女性リーダー研修	「女性リーダー・ユースリーダー研修」に委員が参加	普及促進、女性参加支援	参加人数 17名の委員あり	2023年10月	Yellow	「国不平等や言語の壁の認識を行い、積極的な参加をすることができ、働きながら継続して行う必要あり」
d,e	マッピングシステム構築	加賀国体、特別加賀国体とのネットワーク作り	加賀国体、特別加賀国体とのネットワーク作り	15団体17名の委員あり	通年	Yellow	「国不平等や言語の壁の認識を行い、積極的な参加をすることができ、働きながら継続して行う必要あり」
a,c,f	国不平等や言語の壁の認識を行い、積極的な参加をすることができ、働きながら継続して行う必要あり	国不平等や言語の壁の認識を行い、積極的な参加をすることができ、働きながら継続して行う必要あり	国不平等や言語の壁の認識を行い、積極的な参加をすることができ、働きながら継続して行う必要あり	参加者数 55名	2024年10月	Green	「国不平等や言語の壁の認識を行い、積極的な参加をすることができ、働きながら継続して行う必要あり」

アスリート委員会 委員長 吉田 豊

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成率評価	目標・実績との比較、次年度への課題等
オンラインでの講習会の実施	選手の魅力力向上・ポートショーでのクルーワーク講座	2025年3月	トップ選手との交流による相互成長	参加者20人	2025年3月	Green	オンライン講習会が行なわれたが、ポートショーでのクルーワーク講座を行った。
	各科目、カテゴリーのトップ選手の意見を聴いて	2025年3月	選手間の交流による相互成長	参加者20人	2025年3月	Green	幅広い年代の選手に参加してもらった。予想外だった。
	セーリング部の意識向上、組織改革	2025年3月	アスリートファーストの円滑なレース	参加者50人	2025年3月	Green	セーリング部の意識向上とコミュニケーションを行い、今後各委員とより強固のように連携していくを誓い合った。具体例は、2025年度に決めている。
セーリング選手のための障害予防とヘルスケア	選手会での講習会実施	2025年3月	医師等からのアドバイスを聞き、より良いパフォーマンスに繋げるため	参加者50人	2025年3月	Green	選手会大会中に講習会を2回実施。選手だけでなくコーチや監督にも参加していただいた。

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
E	国際機関ボスト獲得・国際会議派遣	- World Sailingのモディファイer会議、年次会議及び臨時会議等に委員等を派遣する - World SailingやASAが主催する日本のプレジデント上	- 委員の派遣 - WSでの年次総会及び臨時会議等における議題の把握 - 上記議題におけるJSAその他国内のステークホルダーのポジション確認・生成・発信	- World Sailing年次総会には委員（青森、秋田、群馬、和歌山）を派遣（和歌山、群馬委員は自費参加） - 総会の事前には議題の把握及び対応方針の確認を行い、総会後には各委員会に申し送り報告を行い、ワールドセーリングでの議題等に関して情報の共有を行う。 - ワールドセーリングでは、今までの原案委員委員の功績がCancer賞として賞賛された（もちろん国際委員会ではなく本人の功績ではあるが、日本のプレジデントの向上に資した内容として記載させていただきます）。	2024年11月	Green	
E	スポーツ外交	セーリング競技の普及及び普及活動を通しての関係性構築	- 動機等の獲得 - コーチ派遣または、選手・コーチの招へい		2024年5月	Green	インドネシア公使からの要請に応じた、3Dウォール・コース+女子用セットのインドネシア、ジャカルタで開催するセーリング大会への参加を行った。

重点活動	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
h	JSAF直轄下のアンダーピング委員会設立	医事科学委員会内からJSAFの直轄下アンダーピング委員会を設立する	事業継続のため、今後の人材確保の目的	構成員の確保	可能な限り順調	Green	目標は達成できている。引き続き組織体制を維持・維持・強化するため2回/年の開催を計画する。
h	医事科学委員会の機能・強化	医事科学委員会の機能強化(イベント/公開)	委員会内 部会等の充実	部会幹事数、各人数	適宜	Green	目標は達成できている。引き続き新委員会メンバーで活動を継続する。
i	公認選手(アマチュア)の資格の確保・取得のため	公認選手(アマチュア)・公認スポーツディレクター・公認スポーツファーマシー・公認スポーツ実業士・公認アスリートコーディネーター・公認運動医資格の取得とJSAFへの連携および更新の手続き資格取得	委員の専門性の向上	各資格性業、取得人数	適宜	Green	目標は達成できている。引き続き新委員会メンバーで活動を継続する。
j	競技会における安全確保の確保	競技会における安全確保の確保・教育	医事科学委員会の連携・協力による助言	運動医数、救護数	適宜	Green	目標は達成できている。引き続き新委員会メンバーで活動を継続する。
m	オリンピック強化選手へのサポート等の対応	オリンピック強化選手会との連携	疾病・外傷 等の対応(L1等)による助言を含む)	相談件数	適宜	Green	目標は達成できている。引き続き新委員会メンバーで活動を継続する。
n	会費・大会・HOC等事業の充実	会費・大会・HOC等事業におけるサポート(トレーナーサポート)を行う	医事科学委員会 各専門部会およびJAO小委員会と連携し、円滑な選手サポートを行う	相談回数、助言数	適宜	Green	目標は達成できている。引き続き新委員会メンバーで活動を継続する。
h	JSAFスポーツドクター代表者会議	セーリング選抜代表スポーツドクターとして出席	JSAF加盟団体スポーツドクターと情報共有および連携(おもにセーリングスポーツ)	各都道府県および中央競技団体より各代表者からの報告	1回/年 以上	Green	目標は達成できている。引き続き新委員会メンバーで活動を継続する。
h	アンダーピング会議	アンダーピング会議(年次)	NPJの名目下(議室)にない、選手の特権を守ることに円滑な実施に協力	各都道府県および中央競技団体より各代表者からの報告	1回/年 以上	Green	充分に対応できている。
h	JSAF直轄下のアンダーピング委員会設立	医事科学委員会内からJSAFの直轄下アンダーピング委員会を設立する	事業継続のため、今後の人材確保の目的	構成員の確保	可能な限り順調	Green	目標は達成できている。引き続き新委員会メンバーで活動を継続する。
h	アンダーピング協議の維持	年次年度のJAOからの議室変更への対応	アンダーピング協議の維持	人材確保と適切な人員配置	適宜	Green	JAO&協賛して可能であった。
g	アスリートの疾病・外傷予防、対策	臨床スポーツ等の事業におけるアシスト(対外) 救護・外傷予防、対策について講演会の開催	アスリート自身の教育、外傷予防に関する意識の向上	講演会の実施	適宜	Green	目標は達成できている。引き続き新委員会メンバーで活動を継続する。
h	医事科学委員会トレーナー部会連絡会議	医事科学委員会トレーナー部会連絡会議	情報共有および連携強化によるトレーナーサポートの充実	トレーナー部会およびセーリング強化委員会との情報交換	1回/月	Green	トレーナーサポートについて内容や取組を見直し・修正・実施することにおける対応の強化を行うことにより、協議と実効性のある取組の強化が図られている。またトレーナー部会がオンライン強化委員会に所属変更により活動内容や取組の範囲について検討を行い今後のトレーナーサポートについて確認が図られている。
h	JSAFアスレティックトレーナー代表者連絡会議	セーリング選抜代表トレーナーとしての出席	JSAF加盟団体 トレーナーと情報共有および連携(おもにセーリングスポーツ)の実現	各都道府県および中央競技団体より各代表者からの報告 (概数約120名) JSAF トレーナーへの情報共有	2025/1月/実施	Green	継続性及び各都道府県トレーナー協議との情報共有により、他団体の取組や情報を参考にセーリング関係におけるトレーナーサポートに活かされている。しかしセーリング活動の中心となる「協会のスポーツ大会」が限られる方向性については協議協議や各都道府県トレーナー協議との更なる協力体制の構築が必要であると考えられ今後の課題である。

西スポーツ大会委員会 委員長 黒川 勇男									
実行地区	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等		
Ⅱ地区	国民体育大会開催	・中央競技役員の派遣 ・各地主体団体の誘致・協議 ・参加種、運営種の見直し等の推進 ・一般の認知・関心の向上に向けた「見える団体・見せる団体」推進 ・開催地でセーリングスポーツの普及推進	・円滑な団体運営への開催地支援 ・一般の認知・関心の向上 ・開催地におけるセーリング競技の普及	参加選手、監督数 550人 中央競技役員派遣 30人	2023年10月	green	参加種 331種 参加選手、監督数 545人 選手への競技役員派遣 30人 リトルモーター大会へ競技役員派遣 25人 課題：2024年のSAGA選手が国民スポーツ大会として1の目標となる。セーリング競技を、一般観客に対してより見やすく、「ふり分けがやりやすく」アピールすることが必要である。また、よUVを推進の必要がある。		
	国民スポーツ大会開催準備支援事業	・円滑な大会運営を目的とした団体委員会開催 ・開催自治体及び県との調整・指導 ・県スポーツ連合等の中央競技団体とは関係及び指導、助言 ・開催予定地の国・県・市町村との協議 ・開催予定地の行政・セーリング関係者による団体研修会の開催	・円滑な国・県・市町村開催準備への開催地支援 ・国・県・市町村関係者に対する開催地の選定 ・国・県・市町村方針に沿った大会品目の確保	団体委員会開催 2回 団体研修会 1回 中央競技団体研修会 1回	2023年4月～ 2024年3月	green	国・県・市町村委員会開催 2回(2023.6.18、2024.1.28) 国・県・市町村大会 1回(2024.1.28) 中央競技団体研修会 1回(2024.3.18) 中央競技関係自治体及び県との調整・協議を年間を通じて適宜実施 2024年開催自治体及び県との調整・協議を年間を通じて適宜実施 国・県・市町村関係者による団体研修会を開催 課題：国・県・市町村や正副統籌等を通じて国民スポーツ大会開催を積極的に支援し、円滑な大会運営が可能となるよう、国・県・市町村の体制を強化する必要がある。		
	国民スポーツ大会開催関連事業	セールに貼付する県名・県番号の販売助託	・「見える団体」、「見せる団体」の推進		2023年7月～ 9月	green	県名販売 126枚 県名販売 123枚 課題：セールの県名表示は、一般観客もわかりやすいセーリング競技とするために必要不可欠であると判断しているが、広告規定との関係を整理する必要がある。		

[illegible]

ユニース・アカデミー 校長会 校長 中村 公俊									
担当授業	授業名	授業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等		
a.f	ユニースセーリング・シームanshipアカデ	テキストの発行及び配布	海やセーリングへの興味・関心の拡大	配布数	適年	Green	開港地の選手・指導者・関係者に広く配布		
f.h.i	ユニースセーリング・シームanshipアカデ	アカデミーコーチバンクの構築	人材の育成及び活用	登録者数の増進	適年	Green	今年度新たに4名の指導者を追加		
f.h.j	ユニースセーリング・シームanshipアカデ	アカデミーコーチの全国派遣	シームanshipの普及及び経験の共有	全国15か所へのコーチ派遣完了	適年	Green	計画通り15回実施完了		

年度活動	活動名称	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
e	大学対抗U23Jフットボールチームズの開催支援	大学対抗U23Jフットボールチームズ2025開催に向けた支援活動	ユース世代のキールボート競技者の精神拡大	参加選手40名、参加ボランティアスタッフ15名	2025年3月	Green	12チームが出場し、大会が滞りなく開催された。開催支援を継続する。
e	FISU国際学生セーリング選手権へのJSAF代表チーム選考及び参加支援	イタリア・ガルダ湖で開催予定のFISU世界学生セーリング選手権へのJSAF代表チーム選考及び参加支援	ユース世代のキールボート競技力の向上	38人入賞	2024年6月	Green	日本代表チームを大会に派遣し、16チーム中12位の成績を挙げた。
e	グローバルチームズリーグの日本開催に向けた企画・調整・準備	グローバルチームズリーグ2025日本開催のための企画・調整・準備	次期オリンピック競技種目の有力候補であるチームレースの競技性向上および選手強化	大会準備委員会の設立	2024年6月	Red	当該大会の日本開催を遂げた。
e	グローバルチームズリーグアジアへのJSAF代表チーム派遣	イタリア・Real YC主催のグローバルチームズリーグ2024へのJSAF代表チーム選考及び参加支援	次期オリンピック競技種目の有力候補であるチームレースの選手強化	38人入賞	2024年10月	Red	JSAF代表チームの公募に応募がなかった。

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
外務大臣特別政策委員会 議員系 中村 隆夫							
外務大臣特別政策委員会 議員系 加藤 勝彦							
重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
	セールンバー普及拡大事業						
		外洋組のセールンバーの適用範囲を広げ、組織の拡大強化に資する。	セーリング愛好者を増やし、組織の拡大強化に資する。	セールンバー取得組数	適年	Green	7 組登録増加（77 組（1125 人））となることを目標（前年度 61 組（825 人））。
		セールンバー普及拡大に合わせ、各地のヨットクラブや治地での安全・ルール関係の活動を支援する。	全国各地でのセーリングの安全、ルール順守の強化をはかる	開催実績	適年	Green	島崎ヨットクラブで実行。これ以降につなげる基盤が出来た。
	オフショアレース支援と世界選手権派遣事業						
		2022 プリスベン五輪を目指し世界選手権に選手を派遣する。（国内選考レース開催を含む）	2022 五輪を狙える選手育成強化	派遣実績	適年	Green	5 月に外洋ダブルス日本選手権開催。日本代表をワールドに派遣。
		JSAF 共同主催の外洋レースを支援し、世界レベルのレース開催と世界で戦える選手を育成する	2022 五輪や世界選手権、世界レベルの外洋レースで活躍できる選手を育成していく	開催実績、	5 月	Green	外洋ダブルス日本選手権、沖縄東海レース等
		2022 プリスベン五輪での外洋レース復活に向けて、World Sailing の外洋アドバイザリーボードとの連携強化を図る	World Sailing の 2022 プリスベン五輪外洋レース復活に向けての世界戦略づくりに参加を図る	連絡調整状況	適年	Red	前回は World Sailing 関係者へ連絡したが、反応がなかった。
		2022 プリスベン五輪での外洋レース復活に向けて多くの外洋レースに、ダブルハンド・デビジョンを協定し、WQS の 2022 プリスベン五輪外洋レース復活に向けての世界戦略と共同で取り組む。	World Sailing の 2022 プリスベン五輪外洋レース復活に向けての世界戦略と共同で取り組む。	日本からクラブライスレーンまでのダブルハンドレース開催数	適年	Green	沖縄東海レースははじめ、多数のレースにダブルハンド、ショートハンド・デビジョンで参加する。アドバイザリーボード
		オフショアレースのための資格取得、サバイバルトレーニングなどのトレーニング、通信基盤などの整備、実施を進める。	世界レベルの選手育成のためのスキル向上		適年	Green	（1 回開催 24 人と計画）
	加盟団体・特別加盟団体等との関係強化事業						
		外洋加盟団体会長会議を年 2 回開催し、意思疎通を強化する	加盟団体との意思疎通、連携強化をはかる	会議実績	9 月、1 月	Green	2 回実施、実会場と WEB 併用で参加者増
		外洋常任委員会を開催する。（年 4 回程度）	外洋系各組織との意思疎通、連携強化をはかる	会議実績	適年	Green	6 回実施、実会場と WEB 併用で参加者増
		外洋組の技術系部門の強化を図るため、外洋合同委員会会議を支援する。	レース運営、ルール、安全、計測等技術的レベルを全国的に向上させていく	会議実績	2 月	Green	支援した
		ヨットクラブ、治地のグループ等との連携	ヨットクラブ等との連絡・連携の強化を図る	連絡調整実績	適年	Green	
	外洋組の安全確保、事故対策、法制度の適正化の推進						
		外洋組の安全確保、安全情報の交換、救助関係組織との連携強化	外洋レース、外洋セーリングの安全を強化していく				
		ヨットに合わない「法制度の改善を関係省庁・関係機関に要望する	船舶検査、免許制度、通関等をヨットに合うよう改善するための活動	活動実績	適年	Green	国土交通省、海上保安庁と随時連携。小型船舶検査機構評議員等に派遣
		レースでの安全確保の指導					

		サバイバルトレーニング、医療トレーニングの推進	外洋セーラーの安全確保のためのスキル向上	開催実績、		Green	4回開催　41名受講
		万が一のための主催者保険加入	レース主催の安全確保			Green	主催者保険を過年実施
	海洋環境保全普及事業						
		海その愛基金事業とコラボしての海洋環境保全、普及啓発を進める	海洋環境の状況を調べその保全、状況を子供達や市民に啓発していく	活動実績	過年	Red	今年は海その愛基金とのコラボは無かった。海その愛基金委員会自体が休眠状態。
外洋計測委員会 委員長:川倉 紀行							
重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
gJ	レーティング証書発行	・IRC/ORCの計画の実施 ・提出された計測データの確認、必要に応じて問い合わせ・修正 ・IRCデータのRORCへの送付、証書データの受取・内容確認 ・ORC証書の作成・内容確認 ・証書の郵送	レーティング証書の適正化	証書発行枚数IRC340枚、ORCSS枚	過年	Yellow	IRC282枚（2024年間）、達成率83％ ORC54枚（2024年度）、予想達成率98％ 一部の普及を目指すとともに、確実な更新を促すことが課題
h	証書発行データ管理	・証書データの管理、データ・ストレージの管理 ・証書受付、管理表作成、請求書発行、再請求発行	データ資産の保全と利活用性の向上	再請求チェック3回/年	過年	Green	約3か月毎に再請求を実施 今後も定期的な未収対策を継続
gJ	レーティングシステム普及	・レーティングの適正な運用のため、IRC/ORCのセミナーの実施 ・合同委員会会議を年内開催し、最新情報の周知を行う ・船主と船客の両方から情報の提供の支援	公式レーティングのレースの普及と質の向上	合同委員会での周知、TC派遣	過年	Green	ミニトン金日本へのスタッフ派遣の実施
i	規則等の管理・運用	・HPの管理、随時更新 ・最新のマニュアル等を練習資料の翻訳・作成	会員の最新情報へのアクセス向上	日本経路規則、2025年料金表、HP更新	過年	Green	ルール改正、解釈のポイント等を合同委員会会議で周知
h	計測機器の管理	・重量計等の委員会所有の計測機器使用の受付管理、配送 ・定期的なキャリブレーションの実施	機器の精度維持	キャリブレーション1回/年	過年	Green	機器発送済、キャリブレーション待ち
g,h	計測技術の継承	・計測実践のレベルの維持・向上のための講習会の開催 ・計測実践のノウハウの資料化(画像や文書)	計測精度の向上	計測実践講習会の実施	2025年2月	Green	2025年2月東京、関東で開催 IRC49名、ORC19名受講
h	国際会議への派遣	・ORCコンGRESSへの委員の派遣 ・ORCコンGRESSへの委員の派遣	国際標準への適応	会議報告書	2024年10月	Green	IRCコンGRESS（2024/10ノバイ） ORCコンGRESS（2024/11シンガポール）
h,i	外洋計測委員会会議	・外洋計測委員会会議の開催 ・レーティングに関する解釈・解釈の通知文等の作成	国内での運用上の課題の解決	会議録、各通知文	過年	Green	月例会議オンライン開催 会議録、通知文の公開

外洋安全委員会 委員長 平田 隆

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
h	事業1)委員会基本活動						
	委員会議議	委員会議および以下事業の実施に関わる議論と方針・行動の決定を行う	OSRへの理解、安全規制の普及と促進 最終的に、安全航行に資する意識の向上	議事録	通年	Green	必要性に応じて実施判断できた。F2が開催無し。
h	WEBサイトの維持・管理	委員WEBサイトにOSR改訂や安全週間およびその他の連絡事項を掲載し、維持・管理する	OSRへの理解、安全規制の普及と促進 最終的に、安全航行に資する意識の向上	WEBサイトコンテンツ・閲覧数	通年	Green	定期的なWEBサイト更新とSNS発信を実施。
	事業2) 外洋特別規定 (Offshore Special Regulations: OSR)普及						
h	1. OSR日本語翻訳版の発行と国内諸定制定	*日本語翻訳版の発行 *海運課や安全	OSRへの理解、安全規制の普及と促進	OSR日本語翻訳版	1月・2月	Green	計画通り実施
j	2.OSR解説講習会	OSR解説講習会の実施および講師派遣	OSRへの理解、安全規制の普及と促進	受講者数	2月	Green	24年度は要請無し
j	3.OSR解説	SNSなどを利用したOSRの内容解説	OSRへの理解、安全規制の普及と促進	SNSフォロー数	通年	Green	SNSフォロー数は増加、25年3月時点で1167人
事業3)安全航行啓蒙							
j	1安全週間	安全週間は春と秋の2回/年設け、忘れがちな直接関係や委員の訓練等の実施を呼びかける	事故防止、安全航行に対する意識の向上	事故発生件数	4月、10月	Green	24年度は事故報告件数0
j	2安全講習会への講師派遣	加盟国体からの依頼に応じて安全講習会へ講師派遣	事故防止、安全航行に対する意識の向上	受講者数	要請に応じて	Green	24年度は要請無し
j	3安全航行に関わる諸法令の改正のための関係官庁に対する働きかけ	国内未認可の装備品や無線機器などを日本国内でも使用できるように働きかける	セーラーの安全性の向上と活動費用の低減	—	通年	Green	実施無し
j	4「全国海難防止強調運動」の実行委員	日本海難防止協会主催の「全国海難防止強調運動」の実行委員を務める	船舶安全航行に関わる情報収集および発信	—	通年	Green	WEBサイト掲載とSNS発信を実施。
j	5乗船報告会	外洋海難防止の事故数や事故の内容を統計・分析、事故防止や被害の最小化の課題をとりまとめ、必要に応じてJIS委員会、海運会、JISに報告	船舶安全航行に関わる情報収集および発信	—	通年	Green	24年度は事故報告件数0
事業4)外洋関係者会議・合同委員会							
h	外洋関係者会議	外洋レースの運営・計測・安全に関わる情報収集および発信を関係者会議にて実施	外洋レースの運営・計測・安全に関わる情報収集および発信	—	9月	Green	青原島にて実施（オンライン参加）
h	外洋関係者会議	外洋レースの運営・計測・安全に関わる規則のポインタや改正案の解説・共有・議論を合同会議にて実施	外洋レースの全開港一化とレース主催者（加盟国体）のスキル向上	—	2月	Green	青原島にて実施（現地参加）

通商委員会 委員長 山口 誠樹

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
g,h,i,o	海洋局維持事業	既存のJSAF 海洋局の今後の海洋局のあり方の提言を策定	海洋局の今後数年間の運営方針を策定	現状報告書および運営方針計画	通年	Green	みさきヨットに加え、おおしまヨットおよび九州2局のヒアリングを実施済み、運営方針の策定を進め
g,h,i,o	海洋局維持事業	VHF無線局免許更新時の海洋局加入証の取り扱い方法について、関連する地方総合通信局と協議し、手順を改善	無線局免許更新時の海洋局加入証更新の促進	海洋局加入証更新実績の比率向上	通年	Green	関係総合通信局と打ち合わせを実施、免許更新時の手順の改善をお伝えした。決まりに引継ぎ請求を計画中
g,o	オフショアレース支援事業	JSAF共同主催の外洋レースの適応環境およびレーストラッキング環境の整備を支援	世界レベルの外洋レースを適用する適応環境の知見の獲得	開催実績	通年	Green	外洋レースに初めて最新の情報を収集、同時にジャーナリストやプロスポーツ選手などの海外レースで使われた機材、運用方法の調査を実施、外洋合同会議で共有を行った
i,o	外洋艇の安全確保、事故対策、法制度の適正化の促進	外洋艇の安全確保、プレジャーボートの無線局との安全情報の交換、海上特殊無線技士免許の習得	内洋レース、内洋セーリングの安全を強化していく	開催実績	通年	Green	日本マリン無線協会が関する広域連携ネットワーク海洋局との連携が可能か、引き続き計画中
i,o	外洋艇の安全確保、事故対策、法制度の適正化の促進	ヨットに不備ない法制度の改善を関係省庁・関係機関に要望	適応環境をヨットに合うよう改善するための活動	開催実績	通年	Green	関係総合通信局と現状を確認、計議を進める。
i,o	外洋艇の安全確保、事故対策、法制度の適正化の促進	海上適応環境の最新情報の取得	メーカーや無線関係団体との関係を構築し、無線環境の進化に対応する準備を行う	開催実績	通年	Green	船内ネットワークは、船内で確認できるの環境提供および艇材の買出しなどを支援、関係機関を行った。また、PLBの誤発信に対する情報収集、執行する際の留意点を

パワーリング委員会 委員長 佐藤 公孝

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
o	全日本大会	インターシップセーリングにおける国内のランキング対応大会。次年度のパワーリング強化選手の選考レースを兼ねる(JSC/J助成)	国内普及および次年度強化選手選考レースの位置づけ	参加者26人、関係者60人	10/18～20	Yellow	参加者は25年で昨年を40%下回った 次年度は参加者を増やす事が課題
	西日本大会	インターシップによる西日本地域での大会(JSC/J助成)	国内（地域）大会開催による技術力向上促進と普及	参加者20人、関係者40人	8/24～25	Green	参加者は20年で昨年を30%下回った 次年度は参加者を増やす事が課題
g	指導育成講習会	パワーリングの取り組み、インターシップの理念、国際大会の心構え、技術、ルール等を網羅したセミナーを各分野のトップコーチを招いて学ぶ(JSC/J助成)	全国各地でインターシップ理念を理解し、安全性や技術を持った指導者を育成して普及につなげる	江の島会場参加者20人 高松会場参加者10人	11/9 11/17	Green Green	2会場での参加者は30人を超え、予定通りに集まった 次年度は参加者を増やす事が課題
	ブラインド全日本大会	視覚障がい者によるキールボートレースの全国大会(JSC/J助成)	国際大会（2年に1回）に向けた技術力向上と普及	参加者40人	10/25～27	Yellow	選手参加が20歳に留まった 次年度は開催無し
o	強化選手西日本大会遠征費補助	24年度強化選手の大大会出場のための遠征費(JPC助成)	遠征補助により、強化選手の継続的大大会参加を促すと共に、愛好家らの競技志向を高める	強化選手4名+スタッフ1名	10/24	Green	遠方への参加を促進、競技力向上に役立った 次年度の補助は未定
o	強化選手全日本大会遠征費補助	24年度強化選手の大大会出場のための遠征費(JPC助成)	遠征補助により、強化選手の継続的大大会参加を促すと共に、愛好家らの競技志向を高める	強化選手4名+スタッフ1名	10/19	Yellow	海外大会と日程が重なり、強化選手の参加が2名に留まった 次年度の補助は未定
o	強化選手レベルアップ会合	24年度強化選手の大大会に向けての技術力向上会合(JPC助成)	国内大会で一定の成績を収めることで強化選手のレベルアップおよび国際大会へのモチベーション向上につなげる	強化選手4名+スタッフ1名+増設ボランティア5名	7/6	Green	広島県での場外自主参加を上限を超え参加数、成果があった 次年度はさらに技術力向上につなげる
o	海外遠征事前国内練習	海外大会（10月・英国）への派遣が決まった選手の事前練習(JPC助成)	国際大会で好成績を上げることにより、競技の普及および次年度のJPC助成金獲得を目指す	強化選手2名+ボランティア	8/27	Yellow	予算、時間に余裕がなくオンラインにて複数回実施 次年度の開催は未定
o	海外レース選手派遣	10月の世界インターシップ世界選手権への選手派遣（JPC助成金）	強化選手の国際大会出場を支援することで、競技の普及および強化成績につなげる	強化選手2名+スタッフ1名 メダル獲得	9/30	Green	選手4名、スタッフ2名を派遣。入賞以上を獲得 次年度は3位以内が目標
o	海外レース選手派遣	9月のアジアパシフィック選手権への選手派遣（JPC助成金）	強化選手の国際大会出場を支援することで、競技の普及および強化成績につなげる	強化選手1名 メダル獲得	9/30	Green	月別選手がハンザ2023インターシップ部門で優勝
o	海外PDF指導者派遣	24年度ワールドセーリング開催のIDPに指導者を派遣する（WSからの支給）	世界レベルでの指導者育成	指導者2名	10/29	Green	かなり高度な指導内容であった 次年度も派遣予定
c	ハンザ観戦イベント	安全なハンザ観戦って、初心者も子供も高齢者も障害者も一緒に同一プログラムでセーリング体験を支援(日本財団海洋部)	セーリングの普及、新規パワーセーラーの発掘	参加者10～15人	8～10月	Yellow	パワーセーリング体験参加者15名 次年度は参加者を増やす事が課題
c	ブラインドハンザ大会	安全なハンザ観戦って、ワンダフル乗艇のブラインドセーラーによるレースを実施（ゴールドマン助成金）	ブラインドセーリングの普及	参加者6人	11/1～2	Yellow	次年度は参加者を増やす事が課題
c	メディアデー開催	乗艇の報道機関等を招待し、パワー・インターシップセーリングを記者に体験してもらう（経営企画室関係）	報道機関の理解促進	参加者30名	12/15	Green	メディア関係者4名、インターシップ体験参加者17名、スタッフ26名、合計47名で開催 次年度は開催無し
c	配布用媒体作成	パワー・インターシップセーリングの広報宣伝用資料作成(経営企画室関係)	パワー・インターシップセーリングの理解促進	配布用媒体 寄付金・助成金募集	2024/11～ 2025	Green	一般向けチラシ2000枚、ポスター10枚作成。関係団体、関係者12か所に配付済み 次年度も配付継続
-	広報素材作成	パワー・インターシップセーリングの写真や動画を撮影(経営企画室関係)	パワー・インターシップセーリングの理解促進	参加者5名	-	Red	予算が取れず実行できなかった 次年度は作成予定

eSailing委員会 委員長 堀野 俊子

重点施策	事業名	事業内容	事業の狙い	成果を計る指標・成果物	実施時期	達成度評価	目標と実績との比較、次年度への課題等
acf	Steering the Course(PR・普及事業)	Steering the Course期間にVRF紹介と体験会(シデース委員会連携)	艇が「観られる環境」の紹介	参加者50名	2024年5月	Green	8月開業「インター」でeSailing大会に向けてのPRは未実施 関係者へのPRは継続して実施中 初年度の大々的なPRに期待してみたい。が、女性、障壁の状況開拓がセーリング体験を始めるe-sportsとして 目標20,000からの「オープンエントリー練習会」を①20:00②20:15③20:30の3レース開催 選手が大会で初優勝は目標をクリアして目標達成 1月に開催され3位決定戦で勝利し日本チームは昨年を引き続き3位。 eSailing World Championship 2024が12月に開催され、グランドファイナルに2名進出。3位入賞。選手自身、バルトヘグマガジンさんの協力もあり、その他SNSでの情報発信を行ったが、結果の発信比重が大きい。開催時期変更や対戦国との調整で事前の紹介やPRが難しいが、広報委員会と連携し次年度は事前の発信を工夫していく。
acf	eSailing練習会・体験会(PR・普及事業)	オープンエントリー練習会	体験、練習機会の提供、ツールとしての紹介	参加者：1回最大19名x3レース	通年	Green	3/ZZZ/23で体験会、紹介を実施。学生の参加者も多く、高校生・大学生の参加者が多かった。高松にもクルーワークの会合に体験いただき、オンライン、オンラインで実施、オンライン、オンライン、冒険ヨットをやっていた。チラシを配っている一般の方への紹介を含め既知の環境に体験、紹介を実施した。eSailing 練習会、ヨットの
hi	全日本(Japan cap)開催・運営(普及・強化事業)	全日本(Japan cap) 開催・運営	日本でのハイレベルな大会開催	参加者60名	2024年8月	Green	
hi	ネーションズカップ支援(普及・強化事業)	ネーションズカップ支援・選手の活躍記録、紹介によるPRネーションズカップにNFとしての手段	世界大会での活躍紹介と活動支援	ベスト8以上を指す	2024年10月	Green	
acf	オンラインイベント大会・体験会(PR・普及事業)	2025年3月ポートショー等体験会実施	新たなセーリングファン層の拡大	1回10名程度の入れ替わり	2025年3月	Green	